

(27) ニンジン
ア 殺菌剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名								注 意 事 項		
				う ど ん こ 病	菌 核 病	黒 葉 枯 病	軟 腐 病	斑 点 病	し み 腐 病					
アフェットフロアブル	ペンチピラト	アミド	7			◎								
アリエッティ水和剤	ホセチル	有機リン	P07			◎								
アミスターオブティフロアブル	アゾキシストロビン・TPN	混合剤	11・M05	◎	◎	◎		◎	◎					
カスミンボルドー	カスカイシン・塩基性塩化銅	混合剤	24・M01			◎	◎							
カンタスドライフロアブル	ホスカリト	アミド	7			◎		◎						
クプロシールド	塩基性硫酸銅	無機	M01			◎		◎						
コサイド3000	水酸化第二銅	無機殺菌	M01			◎								
シグナムWDG	ピラクストロビン・ホスカリト	混合剤	11・7	◎		◎		◎						
ストロビーフロアブル	クレキシムメチル	ステロイド	11			◎		◎						
スターナ水和剤	チソリニック酸	その他	31				◎							
スマレックス水和剤	プロシトリン	ジカルボキサイド	2		◎									
セイビアーフロアブル20	フルジゲソニル	その他	12		◎									
ダコニール1000	TPN	その他	M05			◎								
トリフミン水和剤	トリフルゾール	SBI	3	◎										
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ	その他	11	◎	◎	◎		◎						
フロンサイド水和剤	フルジナム	その他	29			◎								
ベルコートフロアブル	イミダジンアルベシル酸塩	その他	M07	◎	◎	◎		◎						
ボタニガードES	ホーペリア・ハシアナGHA株分生子	生物農薬		野										野：【野菜類登録】
ポリオキシシンAL水和剤	ポリオキシシン複合体	抗生物質	19			◎								
ポリベリン水和剤	イミダジン酢酸塩・ポリオキシシン	混合剤	M07・19			◎		◎						
マスタピース水和剤	シュートモスロデシア	生物農薬	NC				野							野：【野菜類登録】
ヨネポン水和剤	ニルフェノール銅	有機銅	M01	◎		◎		◎						
ユニフォーム粒剤	アゾキシストロビン・メタラキシルM	混合剤	11・4						◎					
ロブラール水和剤	イプロシリン	ジカルボキサイド	2			◎		◎						
ICボルドー66D	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01			◎								
Zボルドー	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01			◎	野							野：【野菜類登録】

注) イミダジン酢酸塩とイミダジンアルベシル酸塩は、成分が「イミダジン」として取り扱われるので、使用の際は有効成分の総使用回数を超えないように注意する。

(27) ニンジン
ウ 土壤消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名											注 意 事 項
			ケ ラ	ネ キ リ ム シ 類	ハ リ ガ ネ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	萎 凋 病	こ ぶ 病	し み 腐 病	紋 羽 病	
ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤	ダゾメット	I:8F								◎	◎	◎		
キ ル パ ー	カーハムトリウム塩	I:8F								◎		◎		
ク ロ ー ル ピ ク リ ン	クロルピクリン	I:8B	◎	◎	◎		◎				◎	◎	◎	
ク ロ ピ ク 8 0 ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	クロルピクリン	I:8B		◎	◎		◎							
ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤	クロルピクリン	I:8B					◎						◎	
ソ イ リ ー ン	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A						◎	◎			◎		
ダ ブ ル ス ト ッ パ ー	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A						◎	◎	◎		◎		
テ ロ ン D C 油 剤 D ー D	D-D	I:8A			◎		◎	◎						
デ ィ ・ ト ラ ペ ック ス 油 剤	メチルイソシアネート・D-D	I:8F・8A					◎			◎		◎		
ト ラ ペ ック サ イ ド 油 剤	メチルイソシアネート	I:8F					◎							

(27) ニンジン
エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カーバメトリン塩	8F	前作のトマト、ミニトマト又はキュウリの古株枯死、ネコブセンチュウ蔓延防止	使用目的以外での使用不可
			前作のトマト又はミニトマトの古株枯死、コナジラミ類蔓延防止	
			前作のメロンの古株枯死、アザミウマ類蔓延防止	
			前作のイチゴの古株枯死、ネグサレセンチュウ蔓延防止	
			前作のナスの古株枯死	
			前作のピーマン、とうがらし類又はキュウリの古株枯死、アザミウマ類類蔓延防止	
			前作の花き類・観葉植物の古株枯死	

オ 病害虫防除法（ニンジン）

（ア）うどんこ病 *Erysiphe heraclei*

（防除のねらい）

春播きでは5～7月、夏播きでは9～11月に発生する。病原菌は被害部で越冬するようである。

（耕種的防除法）

過度の密植や多肥栽培をしない。

（イ）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）

茎が根頭部に付着した部分から発病し、茎および根に急速に進展する。茎は熱湯をかけられたように変色し倒れる。根は軟らかくなり、やがて外側に白色綿糸状の菌糸を生じ、後に黒色、ネズミ糞状の菌核を形成する。本菌は、菌核が第一次伝染源となるので、罹病残渣をほ場に残さないように努める。本病は気温が15～20℃で湿度が高い場合に多発する。

本菌は多犯性で、ニンジン以外にキュウリ、スイカ、トマト、レタスなど37科、172種の植物に寄生する。

（耕種的防除法）

- （1）病気に強い品種を選ぶ。
- （2）病株は早めに抜き取り、収穫後の残渣は持ち出す。
- （3）夏季に約1か月間の湛水処理で菌核を腐らせる。

（ウ）黒葉枯病 *Alternaria dauci*

（防除のねらい）

罹病植物の残渣が伝染源と考えられている。20～25℃が発病適温で30℃を超えると停滞する。年により急激に進展することがあるので、防除時期を失しないようにする。

（耕種的防除法）

肥料切れをさせないことと乾燥防止を図る。

（エ）黒斑病 *Alternaria radicina*

（防除のねらい）

第一次伝染源は罹病植物、特に保菌種子が第一次伝染源となり発芽時に立枯れを起こしやすい。病原菌は有傷部から容易に侵入して根、葉、葉柄、花などに発病する。肥培管理の悪いほ場で発生するので健全な生育と健全種子が決め手となる。

（耕種的防除法）

- （1）健全種子を用いる。
- （2）肥料切れをさせない。

（オ）軟腐病 *Erwinia carotovora* subsp. *sarotovora*

（防除のねらい）

ハクサイの項参照

（カ）斑点病 *Cercospora apii*

（防除のねらい）

本菌は主として菌糸塊の形で種子や罹病植物の茎葉に付着して生存し、これに分生子を形成して伝染する。胞子の発芽適温は28℃で主に気孔から侵入し、発生は気温の高い時期で肥料切れおよび過乾燥状態で多発する。

（耕種的防除法）

- （1）肥料切れを避ける。
- （2）極端な乾燥を避ける。

(キ) キアゲハ

(防除のねらい)

大発生することはないが、1頭の幼虫の食害量が多いので、ほ場での発生動向を注視する。

(ク) ネキリムシ類

(防除のねらい)

ハクサイの項参照

(ケ) ヨトウムシ (ヨウトガ)

(防除のねらい)

キャベツの項参照

(コ) ヒョウタンゾウムシ類 (ハイイロサビヒョウタンゾウムシ)

(防除のねらい)

ゴボウの項参照

(サ) ヤサイゾウムシ

(防除のねらい)

多食性であるが、ニンジンを好んで加害する。幼虫の寄生時期は11～3月の冬季である。幼虫は芯部の茎間に生息するので発生初期の防除に努める。

(シ) ネグサレセンチュウ類, ネコブセンチュウ類

(防除のねらい)

サツマイモのセンチュウ類の項参照